

発達保障学校集中講義「近江学園における実践研究と田中昌人の発達研究の展開

——『一次元の子どもたち』(東京12チャンネル 1965放映)に学ぶ——」にあたって
シラバスにかえて

2021年11月20日開催

担当：中村隆一

1 人間理解にはさまざまな視点・領域が存在可能であるし、より深い人間理解に到達するために総合的な営為が必要とされることはいうまでもありません。そうした人間理解にとって発達認識の独自の意味が意識されるようになった一つの転機は、近代教授学の登場であったと思います。国家の事業として学校教育制度が始められるとき、教育をになう教員の組織的養成は不可欠の課題でした。そして養成課程で教育方法学はやはり欠かせないものでした。教育方法を実証的に検討しようとする、現実の教授場面の分析や検討が必要になります。そうした教授場面を再構成する場合に、教授の主体である教師に注目するだけでは十分でなく、そこに生徒をどう位置づけていくかが重要な課題だったと思われます。

基本的人権を受け容れる場合、教授の主体に対して同じく主体である生徒を設定する必要がありますが、その場合に「発達の主体」と設定することも可能です。

日本におそらく最初に翻訳され、本格的な教育方法学の教科書として導入された高嶺秀夫訳『教育新論』(東京茗溪会 1885～ Johonnot J. Principle and Practice of Teaching)は、ペスタロッチの教育学のアメリカでの展開の一つを翻訳・紹介したのですが、そこにも以上のような視点がみられます。ただ、法令上は発達は基本的に教授の準拠枠としてのみ語られ、教育場面で生起するダイナミックな関係をとりだす概念としては定着をしていません(こうした経過については、今後「明治期初期の教員養成課程における発達概念の受容(仮)」として論究したいと考えています)。

2 発達研究が「発達」を意識されて展開されるようになったのは、1920年代からであるといわれていますが、そのすべてが前項のような実践的な要請を意識したものではありませんでした。実践現場でなされ、理論という意味では、ワロンやヴィゴツキーの仕事・著作をあげることができます。彼らは理論化のなかで「発達段階」という考え方を組み込みましたが、それにくわえて田中昌人らによる「可逆操作の高次化における階層－段階理論」をあげることできると思います。特に障害のある人たちへの実践の現場での発達研究の系譜をたどる作業としてビネ・ヴィゴツキー・鈴木治太郎・田中昌人をとりあげ、「発達保障の歴史と発達診断・発達相談」と題して第33回発達診断セミナーで報告をしましたが、田中昌人については十分に述べることはできませんでした。

3 田中昌人らの発達研究は1960年ころから本格化し1965年から1970年にかけて「可逆操作の高次化における階層－段階理論」の骨格が成立したとみることができます。1970年に近江学園から京都大学教育学部で教育方法を担当するようになった田中は、発達研究における発達認識と実践研究における発達認識の接点に身を置きながら発達認識を理論化したともいえ、「可逆操作の高次化における階層－段階理論」とその意味を評価するうえで、発達研究と実践研究の二つの面からの接近が欠かせないと思います。

4 2021年度発達保障学校の集中講義の一つとして、1960年代の田中昌人の仕事や論稿を主に取り上げ、田中の発達の認識のふかまりを発達研究と実践研究の両面から紹介しようと構想しました。

5 以上を論じる〈通奏低音〉として1965年に放映されたテレビ番組『一次元の子どもたち』を念頭におきながら、まず第一講では近江学園の概要を当時の実践の基底的な条件に注目して紹介します。第二講では、当時の実践課題を田中がどう意識し、それをふまえて発達研究をどう展開したかを紹介します。その際にこの時期提示されたことが後の「可逆操作の高次化における階層－段階理論」にどのような形で発展的に組み込まれているのか（あるいは組み込まれていないのか）にも可能な限りで言及し、1970年代以降の田中の仕事をたどる作業との関連も意識できるようにここがけます。第三講では、「可逆操作の高次化における階層－段階理論」の基本概念である「可逆操作」の意味を、「発達認識の対象の結像」「発達という動態の概念化」「自己調整を指標とした方法論：可逆操作概念の実践上意義」という三つの点から述べたいと思います。

6 WEBでの講義であること、限られた時間であるということもあり、『一次元の子どもたち』すべてをご覧いただけないという制約、にもかかわらず上記のように多くの内容を予定していることから予定時間内に終わらない可能性があります。それを補うため以下の資料を準備しました。

a)中村隆一：『解説と資料『一次元の子どもたち』』（人間発達研究所 2018-10）

- 事前に郵送する冊子。解説部分の多くが番組作成の経過を記したもの。今回の集中講義で関連するのは後半の資料部分。

b)発達保障学校集中講義「近江学園における実践研究と田中昌人の発達研究の展開

——『一次元の子どもたち』（東京12チャンネル 1965放映）に学ぶ——」（pdf配布）

- 講義内容をほぼ原稿化したもの。これに従って講義。
- 「レジュメ」と呼びます

c)発達保障学校集中講義：追加資料集「近江学園における実践研究と田中昌人の発達研究の展開——『一次元の子どもたち』（東京12チャンネル 1965放映）に学ぶ——」（pdf配布）

- 講義内容を理解する上で必要と思われる図や写真。適宜参照。
- 「追加資料」と呼びます

d)第33回発達診断セミナー心理専門職コース・ゼミV「発達保障の歴史と発達診断・発達相談」資料（2020-11 pdf配布）

- 田中昌人に関する部分は今回の講義と重複する内容が多い
- ビネ、ヴィゴツキー、鈴木治太郎の部分は実践現場に軸足を置いた発達研究の歴史（いわば研究史の一端として）後日参照して頂ければ幸いです